

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500667		
法人名	特定非営利活動法人おもしろ介護の会つくしんぼ		
事業所名	グループホームつくしんぼ		
所在地	津市片田志袋町300番地181		
自己評価作成日	評価結果市町提出日	令和4年4月27日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_022_kihon=true&JivvosvoCd=2470500667-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 4 年 3 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1年ほど、改修工事を行って、昨年12月にリニューアルオープンしたばかりのグループホームです。まだまだ手探り状態ですが、外部評価等、皆様のアドバイスをいただき、より良いグループホームを創っていきたく考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

もともと一般住宅を改装してグループホームを運営していたが、令和3年に内部改装して一層使いやすくなった。改装時は利用者3名が法人内施設へ、2名が他施設へ移動、職員も全員退職してもらい令和3年12月に事業再開した。職員もほとんど新採用のため今は何もかも手探り状態である。法人は近くで別の福祉事業を営んでおり、理事長の他、管理者とケアマネジャーが法人職員としての経験を活かしながら日々の運営に取り組んでいる。ケアプランの作成には、全職員と意見交換しながら独自様式を活用し適切なプラン作成を進めている。また、炊事・買い物は職員が交代して行い、日々話合って運営されており、一般家庭の台所さながらの雰囲気を感じさせる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	約1年間のブランクがありまだできていない。	昨年改修工事を行い、事業再開後4カ月不足である。工事中は全職員が異動や退職、利用者も退去しており、再開時は新職員ばかりで発足した。理念を“ゆっくり、ゆったり、その人の生活リズムを大切に”と定めているが、その浸透度はまだ不明確である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	約1年間のブランクがありまだできていない。	理事長が地元の住民であり、父は自治会長のため近隣者と馴染みである。しかしコロナの影響で自治会行事の多くが中止され、しかも古い団地で人口減少と住民の入替りがはげしく、散歩に出ても挨拶が少なくなった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	約1年間のブランクがありまだできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約1年間のブランクがありまだできていない。	再開後の会議は行っていない。民生委員は他の地域におり、家族は以前に案内したが参加してくれず、どうしたらいいか迷っている。	運営推進会議は必須事業のため、行政とは打ち合わせ、地域関係者とは事前に相談し、家族には趣旨をよく説明する等により、早期に再開されるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	約1年間のブランクがありまだできていない。	再開後分からないことが多く、その都度市役所に行ったり、電話で聞いている。認定更新手続きはケアマネジャーや職員が市へ書類を届けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来ているが、職員がきちんと理解したうえで実践できているかはまだ分からないところもある。	身体拘束をしない支援とは何か、ミーティング時に全職員で意見交換し、その様子がカンファレンス記録ノートに書かれている。意見交換の内容や記録の充実等は今後の課題である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	出来ているが、職員がきちんと理解したうえで実践できているかはまだ分からないところもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ているが、職員がきちんと理解したうえで実践できているかはまだ分からないところもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来ているが、職員がきちんと理解したうえで実践できているかはまだ分からないところもある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	約1年間のブランクがありまだできていない。	コロナ禍であるが家族来訪時は、マスク・消毒し、10～15分程度面談してもらっている。同法人内デイサービスの合同交流会には本人と家族が面会した。家族は症状進行しても自分らしく過ごせたらと願い、料金値上げをしないよう希望している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ全員が新人でなかなか深い話をしていない。	毎月1回のミーティングと毎日の申し送りで職員は意見交換している。ミーティングでカンファレンスをはじめいろんな協議をしている。理事長は担い手の育成、職員は給与改善の意見をよく出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力はしているが個々の希望に合っているのかはわからない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	約1年間のブランクがありまだできていない(もう一つのつくしんぼとの交流・合同研修は行っている)。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	約1年間のブランクがありまだできていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。	再開後、利用者も入れ替わったがまだ寒いため出かける予定はない。近くから入居した利用者に対してバイクで面会に来る人もいるが、団地内で出会う住民も少なく、馴染みの場との交流も減少気味である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	約1年間のブランクがありまだできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み叶えられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。	近くから入居し帰宅願望の強い利用者には自宅まで連れて行く等、根気良く付き合っている。趣味で折り紙を折ったり、似顔絵を描きたい利用者にはその材料を提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み叶えられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み叶えられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み叶えられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。	全職員がカンファレンスで協議し、個別事情をピックアップして6カ月毎に評価表へ転記しケアプランを作成している。プランは家族に郵送し、署名をもらっている。評価表と関連資料、アセスメント様式はケアマネジャーが独自に考案した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み叶えられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み叶えられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医が往診し助言して下さる。	入居前の主治医に通院することを基本にしているが、近隣の医院が熱心で、往診や看取りにも対応してくれるので利用者はみな受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医と細かく連絡を取り合い指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	約1年間のブランクがありまだできていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	約1年間のブランクがありまだできていない。	再開後はまだ看取りまでしていないが、以前から自然な形で終末までを看取るという方針であり、今もそう考えている。必要なら主治医が看護師を派遣してくれる。家族には入居時にこの方針と実例を説明し、了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	約1年間のブランクがありまだできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	約1年間のブランクがありまだできていない。	再開後はまだ防災訓練はしていない。職員とは、ここから火は出さない、ということ徹底している。	災害はいつどのように起こるか分からないので、職員との意見交換のみでなく、早期に防災訓練をする等、具体的なやり方は消防署ともよく相談し、安心安全な場となるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み叶えられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。	職員全体で転倒防止やトイレに目配りするよう注意している。職員間でもお互いに注意し合える関係になるよう取組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み叶えられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み叶えられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み叶えられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み叶えられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。	炊事場とホールがオープンであり、調理中の様子がよく分かる。炊事や買い物は職員が交代で行うが、順番はその日の業務都合を話し合って決めている。メニューもその日の材料を見て、利用者にも相談し、決めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み叶えられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み叶えられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。	自分でトイレに行くよう見守っているが、常時おむつ使用は1名、トイレ要介助が1名、夜のみポータブルトイレ使用が2名いる。その人の言動に注意しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。	週3回は入浴できるよう準備しているが、自分で希望されたいいつでも入浴できる。家庭用浴槽を設置しているが、要介助者には職員が対応するスペースがあり、広がって喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。	コロナ禍の影響と再開後まもなくのためまだ外出していない。しかし桜の見ごろには花見に行くつもりである。以前は近くにある花園によく出かけた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。	日中はホール兼食堂に出てきておしゃべりしたり、趣味の折り鶴や塗り絵、手芸品づくりをしたりしている。重度で寝たきりの人でも車いずに座りながら横に並んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。	ベッド・エアコン・クローゼットは事業所が設置しているが、部屋によってそれぞれ使い慣れたもの、家族に連なる品物等を持ち込んでいる。TVをセットしている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全員ではないが、一生懸命気持ちを組み立てられるよう努力・工夫している現場の姿はよく感じている。		